茨木市立穂積小学校　学力・体力向上ジャンプアップ計画

平成２８年１０月作成

1 今年度の結果と取り組みについて

（1）全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語Ａ

（領域ごと）

①話すこと・聞くこと

概ね良好な結果であった

②書くこと

概ね良好な結果であった

③読むこと

概ね良好な結果であった

④言語事項

概ね良好な結果であった

（問題形式）

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

③記述式

対象問題なし

（無解答率）

概ね良好な結果であった

（その他）

・漢字の書き取りは、すべての問題で全国平均を上回った。
・ローマ字の読み書きの正答率が、全国の数値に比べて低い傾向がある。無解答率も 1 割を超えている。
・登場人物の人物像について複数の叙述を基にして捉える問題の正答率が低かった。

国語Ｂ

（領域ごと）

①　話すこと・聞くこと

概ね良好な結果であった

②書くこと

概ね良好な結果であった

③読むこと

概ね良好な結果であった

④言語事項

対象問題なし

（問題形式）

①選択式

概ね良好な結果であった

②　答式

対象問題なし

③記述式

概ね良好な結果であった

（無解答率）

概ね良好な結果であった

（その他）

・グラフを基に、わかったことを的確に書く問題(2 一)では、全国平均を 10 ポイント以上も上回った。
・自分の考えを書く問題は無解答率が全国より高く、効果を捉える問題(2 三)の正答率は、全国平均より低かった。
・資料を読み取り要約する最後の問題(3 三)の無回答率は 2 割を超えた。

分析

・国語については、Ａ問題では、全国平均を下回ったが、Ｂ問題では上回った。
・国語Ａでは書くこと、読むことの領域の問題は正答率が比較的高い。話すこと聞くことに関する領域の問題は、全国平均を下回ってはいる。
・国語Ｂでは、領域別、問題形式別ともに全国平均を上回っており、おおむね良好な結果であった。しかし、記述式では、問題の内容によっては、書けない児童が多く見られた。
・国語ＡＢとも、無解答率が全国平均よりも高い。自分なりの考えを表現することが苦手で、分からないものはそのまま空白にしてしまう児童が多く見られた。

○●算数・数学●○

算数・数学Ａ
（領域ごと）
①数と計算
概ね良好な結果であった
②量と測定
概ね良好な結果であった
③図形
概ね良好な結果であった
④数量関係
概ね良好な結果であった
（問題形式）
①選択式
概ね良好な結果であった
②短答式
概ね良好な結果であった
③記述式
対象問題なし
（無解答率）
概ね良好な結果であった
（その他）

・数と計算の問題で割り算の正答率が低い傾向がある。他の正答率は高い。
・割合の問題４、８の正答率が全国平均を大きく下回った。無解答率も高い。

算数・数学Ｂ
（領域ごと）
①数と計算
概ね良好な結果であった
②量と測定
概ね良好な結果であった
③図形
概ね良好な結果であった
④数量関係
概ね良好な結果であった
（問題形式）
①選択式
概ね良好な結果であった
②短答式
概ね良好な結果であった
③記述式
概ね良好な結果であった
（無解答率）
概ね良好な結果であった
（その他）

・数値の意味を解釈し書く問題(2(3))は 5 ポイント、理由を問題(3(2))は 10 ポイント全国平均を上回った。
・全体的に無解答率が高い傾向があり、3 割にのぼる問題(5(1))もある。

分析
・算数については、Ａ問題では、全国平均を下回ったが、Ｂ問題では上回った。
・算数Ａでは、すべての領域で正答率が全国平均を下回った。
・算数Ｂでは、図形領域が他の領域よりも低いものの、他は、おおむね良好な結果であった。
・国語同様、算数ＡＢともに無解答率が全国平均より高いことは今後の課題である。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

・前年度より国語ＡＢ算数ＡＢともに低い数値となった。
・平成１９年度から８年間の経年変化をみてみると、どの年度も全国の平均正答率よりも高い値を示していたが、本年度は国語Ａ算数Ａは、全国平均を下回った。
・全国平均１に対する本校の無解答率が、H25 年度から全国平均より高くなっている。

学力高位層と学力低位層についての分析

・学力低位層は、ここ２年減少傾向にあったが、本年度は過去に比べて多い。
・学力低位層と高位層の二極化が見られる。
・国語Ａ算数Ａでは、学力低位層が全国平均より多い。
・算数Ｂは学力高位層が全国平均より多い。

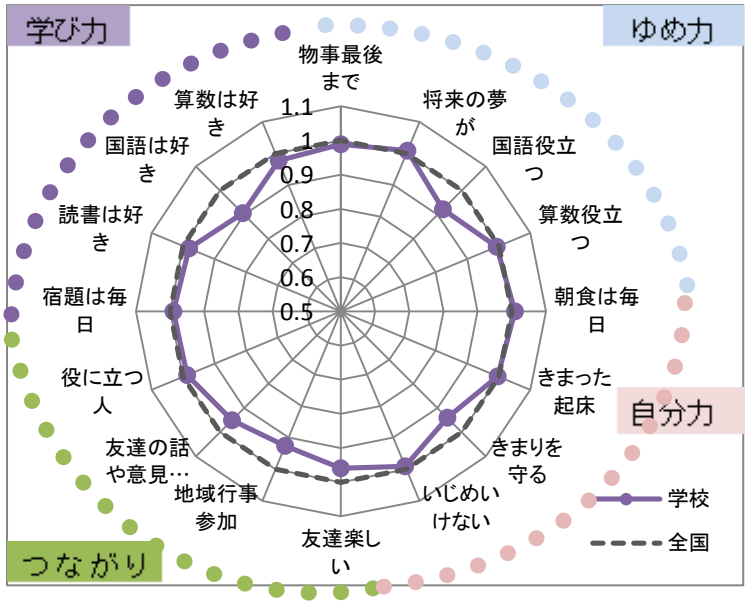
○●取り組み●○

学力向上に関する取り組み

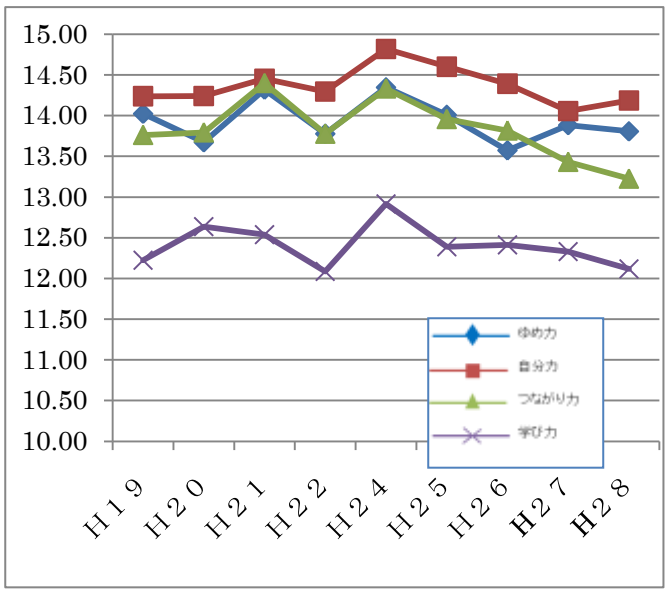
・普段の授業の中で、自分の考えを書かせる時間をつくり考える力をはぐくむ。
・基礎力アップの手立ての基礎基本のプリント学習を、もう一度見直す。（10 分程度で前学年の既習事項）
・算数において、習熟度別授業を推進し、問題解決学習を継続する。
・図書館支援員と連携し、読書活動の充実を図る。
・専門支援員と連携し、児童の実態に応じた個々にあった学習支援を行う。（基礎力を定着させる。）

○●子どもたちに育みたい力●○

今年度の結果



これまでの推移



分析

・起床や朝食の基本的生活習慣は家庭の協力で概ね身についているといえる。
・「学校のきまりをまもっていますか」への質問に対し、肯定群への回答が低い。
・「自分にはよいところがあると思う」「友達の前で意見を発表することが得意」という質問に対し、肯定群の回答が低い。自己肯定感の低い児童が多いといえる。
・「学校で友達に会うのが楽しい」と感じている児童が全国平均より低い。
・全国平均に比べると、「国語が役に立つ」「国語が好き」という項目についての肯定群が低い。
・地域行事に関心のある児童は、昨年度は非常に高かったが本年度は低かった。

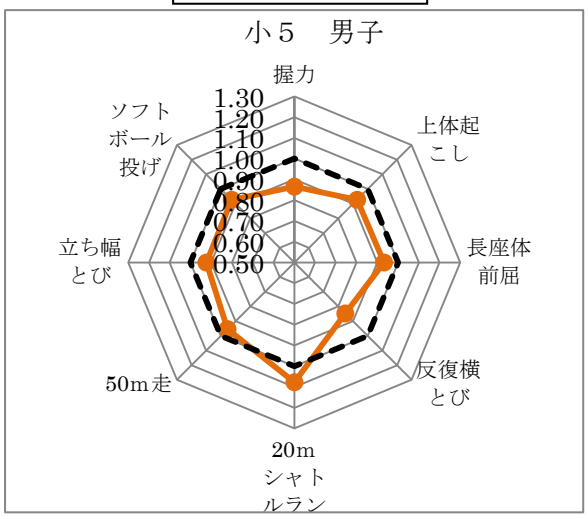
取り組み

・家庭への啓発も含めて規範意識を養う。生活チェックや元気調査で実態把握をし、その児童に寄り添った対応をする。また、調査結果を学校だよりなどに載せ、保護者・地域との連携を図っていく。
・自己肯定感を高める活動を、人権学習や集団づくりの中でさらに推進していくとともに、異年齢交流や縦割りグループ活動を効果的に取り入れていく。
・国語や算数を中心に授業改善に取り組む。
・地域とのつながりを深める活動に引きつづき取り組んでいく。

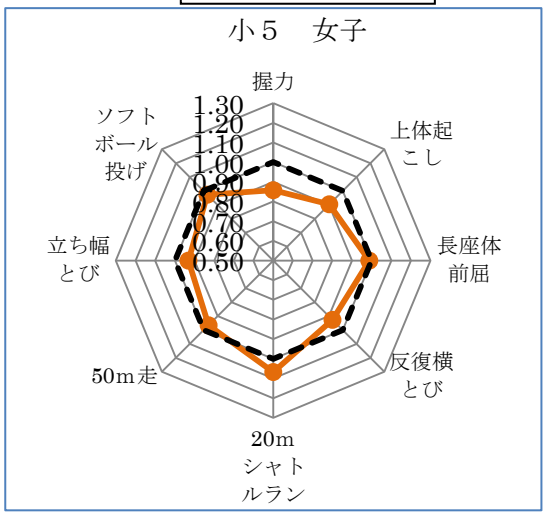
（2）全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

男子（小5）



女子（小5）



分析

・全体的に全国平均を下回っている項目が多く、握力の平均、反復横とびの平均が全国と比べて大きく下回っている。

・４年女子の上体起こしが全国平均と同じであり、また、５年の男女とも２０ｍシャトルランの数値が全国平均よりも上回っていた。

・全学年の長座体前屈の項目は全国平均よりも低い数値ではあるが１学期の取組みにより数値が上がり他の項目に比べると高い数値となった。

・５年男女とも握力、上体起こし、反復横とびは、全国平均よりも低い数値であるが昨年度と比較すると数値が上がった。

・６年女子は、昨年度と比較すると、若干数値は上がったが課題が残る結果となった。

取り組み

○学校全体でどの学年も体力向上に向けて継続的、長期的に取組みを推進していく。

・「茨木っ子運動」をこれまでも体育の授業や朝会で行ってきたが、今後は、身体のどこの部位を鍛えているのかを意識してていねいに運動を継続していく。

・立命館大学の短時間運動プログラムを効果的に取り入れ、充分な活動量や多様な動きを取り入れることを留意し、体育の授業改善に取り組む。

・遊びの中での体力向上をめざし、毎週金曜日の業間に外遊びをよびかける「外に出よう DAY」に取り組み（体育委員会のよびかけ）、体を動かす心地よさを味わうことができるようにする。

・異学年での縦割り班で遊ぶ時間を児童朝会で取り組む。

・年間を通じて、長距離走、なわとびなどの運動、また一輪車や竹馬を使った遊びを設定し、基礎体力・運動感覚を養う。

○握力が弱い

・グーチョキパーの手遊びやグーパーの動きなど、握る感覚を培う体つくり運動を準備体操、補助運動として実態に応じて継続的に取り組んでいく。

・のぼり棒やうんてい、鉄棒など遊具や道具を使った運動を積極的に取り入れていく。

・ボール運動などは個人差や経験の差もあるので「外に出よう DAY」を活用してボール遊びに取り組む機会を作る。

・手の大きさに合うようなボールを選んでボール遊びを取り入れる。

○体幹が弱い

・体育の授業だけでなく、授業中の正しいイスの座り方や立ち方などを日頃から意識するよう声かけし、姿勢保持ができるようにする。

・ラダー運動でも体の中心を支えるよい運動内容が見られたので、積極的に授業で取り入れる。

○柔軟性

・１学期に行った短時間運動プログラム「まげまげピン」で効果があったので、引き続き１年間続けていく。

・準備運動の後、ストレッチの時間を少しでも取り入れる。

2 3年間の計画

（各校）　　（ブロック共通）

	学力向上	体力向上	中学校ブロック連携
目標	基礎基本の力を土台にした豊かな思考力の育成	運動や食育を通してたくましい心と体を育てる。	小中プロブレムの解決
平成26年度	・学び力：朝学習（「ほづみっこタイム」）「朝の読書活動」の継続 問題解決学習の推進　ユニバーサル授業の推進（授業改善）　ノート指導　説明文の読解 各学年研究授業に取り組む 読書活動の推進、図書室を活用した授業 ・自分力：「家庭学習」の定着と保護者への啓発を図る ・ゆめ力：地域人材等による出前授業・体験学習 ・つながり力：「あいさつ運動」 ともに学び高めあう集団づくり 人間関係トレーニング ・自分力：「ほづみルールブック」の活用 活発な児童会活動の推進 生活習慣　生活チェックシートの活用	・「茨木っ子運動」の推進 ・体育科授業の改善 ・体育の授業の中でサーキット運動を取り入れる ・平素から運動に親しめる環境を整える（竹馬や一輪車などの遊具の充実） ・年間を通した縄跳び運動やマラソンなどの取組を推進する ・食育の授業を実施しランチルームの活用をすすめる。 ・食習慣のチェック及び改善を行う。	・連携担当者会議の開催 ・連携コーディネーター教員による「小中学校間いきいきスクール」の開催 ・学校事務の共同実施 ・各校の研究授業に参加 ・行事を共有しあう
平成27年度	１年目の取り組みの成果と課題を検討し、目標に照らし合わせながら再度組み立て直す。 ・全国学力・学習状況調査における低学力層や無解答率を減らし、質問紙調査の結果の分析考察を行う。 ・思考力スキルを生かした授業作りをおこなう ・集団づくりの系統的な取組みを推進する。 ・ゲストティーチャーの活動を推進し、地域との交流をすすめる。	体力診断テストの結果が、昨年度より上回るような取り組みを行う。 ・茨木っ子運動を積極的に行う。 ・遊具や教具の充実をはかる ・サーキット運動などを通じて様々な運動経験をさせる。	・連携担当者会議の開催 ・連携コーディネーター教員による「小中学校間いきいきスクール」の開催 ・学校事務の共同実施 ・教科・養護・支援などの部会を開催（連携カリキュラムの検討） ・中学校ブロック合同研究授業の開催 ・行事を共有しあう（あいさつ運動など）
平成28年度	２年目までの取組みの成果と課題を検討し、目標に照らし合わせながら再度組み立て直す。 ・全国学力・学習状況調査における低学力層や無解答率を減らすために、質問紙調査の結果の分析考察を行う。 ・児童の実態を考察し、２年目で不十分であった取組みの検討と新たな取組みを推進する。 ・プラン最終年度としてのふり返りを行う。	体力診断テストの結果が、昨年度より上回るような取組みを行う。 ・児童の実態を考察し、２年目で不十分であった取組みの検討と新たな取組みを推進する。 ・プラン最終年度としてのふり返りを行う。	・連携担当者会議の開催 ・連携コーディネーター教員による「小中学校間いきいきスクール」の開催 ・学校事務の共同実施 ・教科・養護・支援などの部会ごとの（連携カリキュラムの作成） ・中学校ブロック合同研究授業の開催 ・ブロック連携カリキュラムの作成 ・行事を共有しあう（あいさつ運動など）